

資料を読み取り、考え、知識を定着させる 「地理探究」の授業でのICTの活用

〈訪問先〉

三田国際学園高等学校※ 福澤 友喜 先生

2年「地理探究」(単元) 言語・宗教・民族問題

(2025年2月訪問)

—使用教材—

『デジタル準拠ノート
新詳地理探究』



今号は、編集部が学校におうかがいして、ICTの活用で生徒の学びが変わる、
双方向型・思考型の授業実践を取材してお届けします。

ICTの活用状況

東京都世田谷区にある三田国際学園高等学校は、Apple社によってDistinguished Schoolに認定されたICT教育の先進校です。校舎内はWi-Fiが完備され、生徒は1人1台のタブレット端末またはノートパソコンを持ち、学習の記録・分析から生徒会選挙の投票まで、幅広い場面でICT機器を活用しています。2年の「地理探究」の授業では、授業支援クラウドサービス「スクールタクト」で資料や問題のスライドを共有し、各生徒がiPadやMacBookを使いながら、生徒自ら考え、実践する思考型の授業を進めています。



授業の流れ

三田国際学園高等学校では、自律した学習者を育てる教育を根幹にしています。「地理探究」のクラスでは、席を固定せず、生徒は意見を共有しやすい相手の近くに座って、教科書や資料集を調べたり生徒同士で話し合ったりしながら、発問に対して自分で考え、答えを導き出していきます。

初めに、先生から単元「言語・宗教・民族問題」につながる資料と問題がそれぞれ掲載されたスライドが、「スクールタクト」を通じて各生徒のタブレット端末に配信され(①)、授業がスタートします。生徒は、先生の発問とともに提示された図を、インターネットの情報などにアクセスしながら読み取り、気づいたことをまとめます。

次に、知識を確認するために、関連する大学入学共通テストなどの問題に取り組みます(②)。問題を解くためにどうすることが分かればよいのか、「地理総合の理解や技能」「より専門的な視野」を意識しながら考えたことをタブレット端末に書き込み、クラス全体で共有します。

さらに、問題を解くための新たな資料で理解を深めながら(③)、最後に答え合わせを行い、考えを深めていきます。

※ 三田国際学園高等学校は、2025年4月より、校名が三田国際科学学園高等学校に変わります。

① 資料の提示

スライドを共有し、発問を通じて資料の読み取りを行います。

② 知識の確認

過去の共通テスト(センター試験)などから関連する問題を出題し、生徒は話し合ったり調べたりしながら制限時間約2分で考えます。

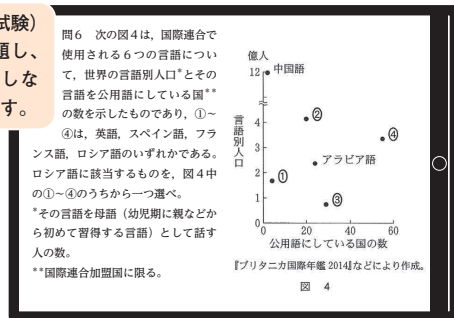


③ 解説・答え合わせ

新たな資料の説明で思考を深め、答え合わせをします。



思考のヒントとなる世界各地の言語での「あいさつ」が紹介されているウェブサイト「世界のあいさつ」にリンク。



大学入試センター試験(2016年度)地理A第1問問6



福澤先生が考える ICT 活用のポイントとは？

私は、生徒たちに、教えられるよりも自分で考えられる人間になってほしいと思っています。家で暗記することはできても、他の人と意見を交わしながら思考する方法は、みんなで集まる学校でしかできないことです。

そこで、授業では先に問題を提示し、何がその問題を解くのに必要か、生徒がそれぞれ考え、地理的事象を自分で調べたくなるようにしたいと思っています。

以前、本校の研修で、ある先生が、生徒たちに問題を解くための自作の資料を提示して、そこから読み取って必要な内容をまとめさせるという「教えない授業」をされていました。そこからヒントを得て、本校が掲げる「自律的学習者」と「教えない授業」をかけ合わせて、今の授業形式になりました。「地理B」までは一斉講義型で

教えていましたが、「地理総合」になって一度遊び感覚で取り入れてみたら、これは理解・定着が進みそうだなと手応えが感じられた

ので続けています。偏差値も当初は微増でしたが、昨年

から一気に上がってきて、効果的だと分かりました。一つの問いを対話しながら進めていくので、資料を共有したり情報を調べたり、探究的な学びのさまざまな場面で ICT 機器は役立ちます。また、デジタル教材についても積極的に活用していきたいです。「デジタル準拠ノート」も、必要に応じて作問ツールを活用し、自作の問題を配信するなど、使い方を広げていきたいと考えています。



デジタル教材「デジタル準拠ノート」の活用についてうかがいました

探究的学びを深めるためには、それを支える基礎知識の定着が欠かせません。そのためにデジタル教材も積極的に活用しています。地理では、1年「地理総合」、2年「地理探究」で自学自習に適した「デジタル準拠ノート」を採用しています。これは、「教科書準拠ノート」をデジタル化したもので、自動的に採点されるのはもちろん、間違った問題を繰り返し解くことが簡単にできます。生徒は朝学習の時間に取り組んでいますが、その他にも各自自分で時間を見つけて取り組むことにしています。進捗については基本的に各自に任せています。自分の理解度によって、自由に進めることができるのがよいところですね。

『デジタル準拠ノート 新詳地理探究』



「出題」画面 知識を基に主題図から読み取る力を求められる問題も収録。

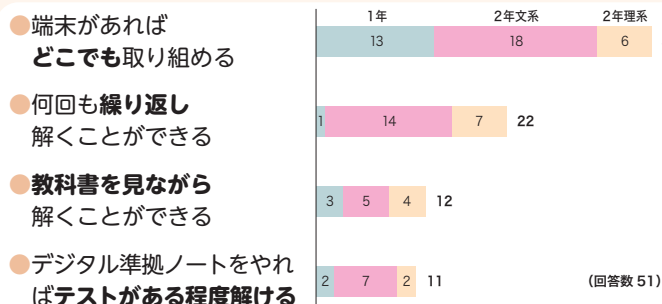


「解答結果」画面 単元で求められる知識の定着を自己分析できます。

実際の「使用感」は？

「デジタル準拠ノート」について生徒にアンケート

Q 1 デジタル準拠ノートの「よい」ところは？



Q 2 日頃どのように取り組んでいますか？

- 朝学など隙間時間に10～20分ほど取り組む
- テスト前に基礎知識を学ぶため
- 授業の時や、授業の復習／予習に勧められた際に取り組んでいる
- テスト前の問題演習として使っている
- テスト前の用語確認や共通テストの過去問などに触れるため

「デジタル準拠ノート」について詳しくはこちらから➡



※ アンケートは三田国際学園高等学校1年、2年文系、2年理系の生徒を対象にGoogleフォームで2025年2月に実施。